

思考力・判断力・表現力を高める国語科指導の工夫

～「話すこと・聞くこと」の領域に関する観点別学習状況評価等の活用を通して～

うるま市立与勝中学校 教諭 宮城 千秋

目 次

I	テーマ設定の理由	1
II	研究目標	1
III	研究仮説	1
IV	研究の全体構想図	2
V	研究内容	
1	「思考力・判断力・表現力」について	3
2	「話すこと・聞くこと」について	4
3	観点別学習状況評価等について	8
VI	研究実践	
1	検証計画	11
2	指導の実際	11
3	本時の指導	14
VII	仮説の検証	
1	具体仮説（１）の検証	17
2	具体仮説（２）の検証	18
VIII	研究の成果, 課題・対応策	
1	成果	20
2	課題・対応策	20
	《参考・引用文献》	20



思考力・判断力・表現力を高める国語科指導の工夫

～「話すこと・聞くこと」の領域に関する観点別学習状況評価等の活用を通して～

うるま市立与勝中学校 教諭 宮城千秋

I テーマ設定の理由

現行の学習指導要領では、思考力・判断力・表現力等を育成するため、基礎的・基本的な知識・技能を活用する学習活動を重視するとともに、論理や思考等の基盤である言語の果たす役割を踏まえ、言語活動を充実することとしている。学習指導要領解説国語編では、国語による表現力と理解力とを育成することが、国語科の最も基本的な目標であることを述べている。また、中央教育審議会「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」（平成22年3月）では、「観点別学習状況の評価は、指導要録に記録するためだけでなく、きめの細かい学習指導と児童生徒一人一人の学習内容の確実な定着を図るため、日常の授業においても適切に実施されるべきものである。」と記されている。

これまでの実践を振り返ってみると、生徒が主体的に学習に取り組む態度や思考力・判断力・表現力等に課題があるという現状にも関わらず、教師主導で教え込んでしまう形態が多かった。その原因を考えると、生徒が話し合いをする時間を確保すると、予定通り授業が進まなくなってしまうという不安があった。さらに、教師主導で授業が進んでいくために、生徒とじっくりと向き合うことが出来ていない場面があった。一人ひとりのよさや可能性、進歩の状況について評価する個人内評価がうまくいできていなかったように感じる。

本校生徒は、平成25年度全国学力・学習状況調査の結果において、「相手の発言を注意して聞き、自分の考えを具体的に書くこと」、「文脈に即して漢字を正しく書くこと及び読むこと、語句の意味を理解し文脈の中で適切に使うこと」等に課題が見られた。また、日頃の授業において、発言したいという気持ちはあるが、言葉の活用が十分ではないことから、自分の考えをうまく相手に伝えることが出来ないという状況がしばしば見られる。

本研究では、「話すこと・聞くこと」の領域の中でも、とくに「話し合う」活動を積極的に取り入れていきたいと考えている。相手に自分の意見を伝えるためには、「話すこと・聞くこと」や「書くこと」、「読むこと」に関する基本的な国語の力の定着に加え、内容に即して思考・判断したことを表現する力が必要である。そのため、生徒一人ひとりの実態をきめ細かく把握し、生徒が苦手意識を持っている内容について、個に応じた指導を行うための観点別の学習状況の記録や生徒自身の学習の振り返りによる評価を工夫したい。

以上のことにより、「話すこと・聞くこと」を充実させることで、思考力・判断力・表現力が育成できると考え、本テーマを設定した。

II 研究目標

「話すこと・聞くこと」の領域において、観点別学習状況評価等を活用した、個に応じたきめ細かい指導を行い、「話し合う」活動の場を工夫することにより、思考力・判断力・表現力を育成する。

III 研究仮説

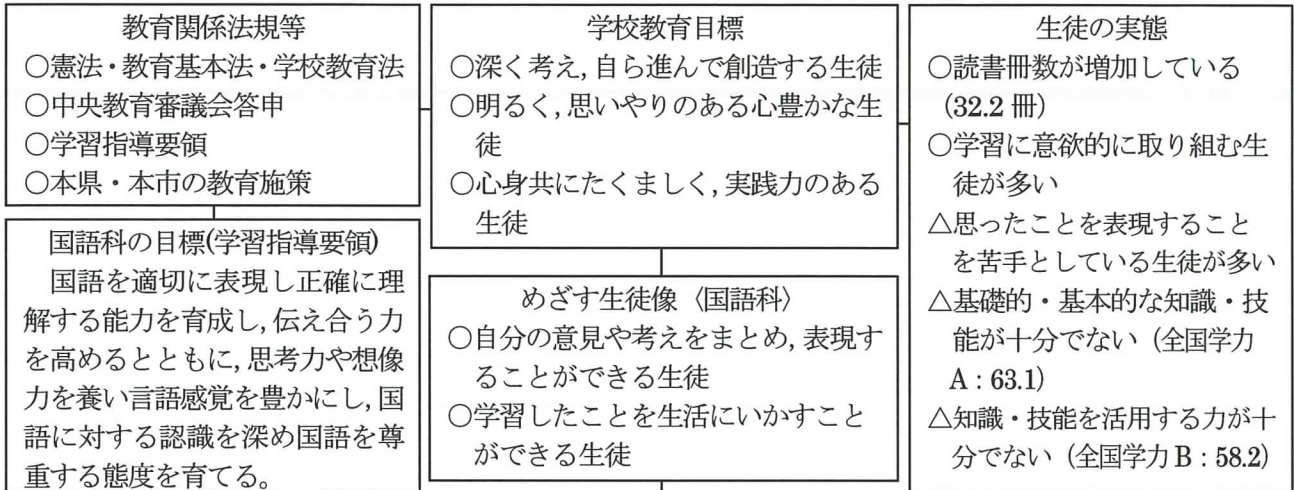
1 基本仮説

「話すこと・聞くこと」の領域において、次のような指導の工夫をすることで、生徒の思考力・判断力・表現力を高めることができるであろう。

2 具体仮説

- (1) 観点別学習状況評価、自己評価表の工夫・活用を行えば、生徒の実態をきめ細かく把握することができ、効果的な授業実践ができるであろう。
- (2) 「話すこと・聞くこと」の学習において、個人・グループの実態に応じ、話し合いの手立て等を使い、段階的な指導を工夫することにより、生徒の思考力・判断力・表現力を高めることができるであろう。

IV 研究の全体構想図

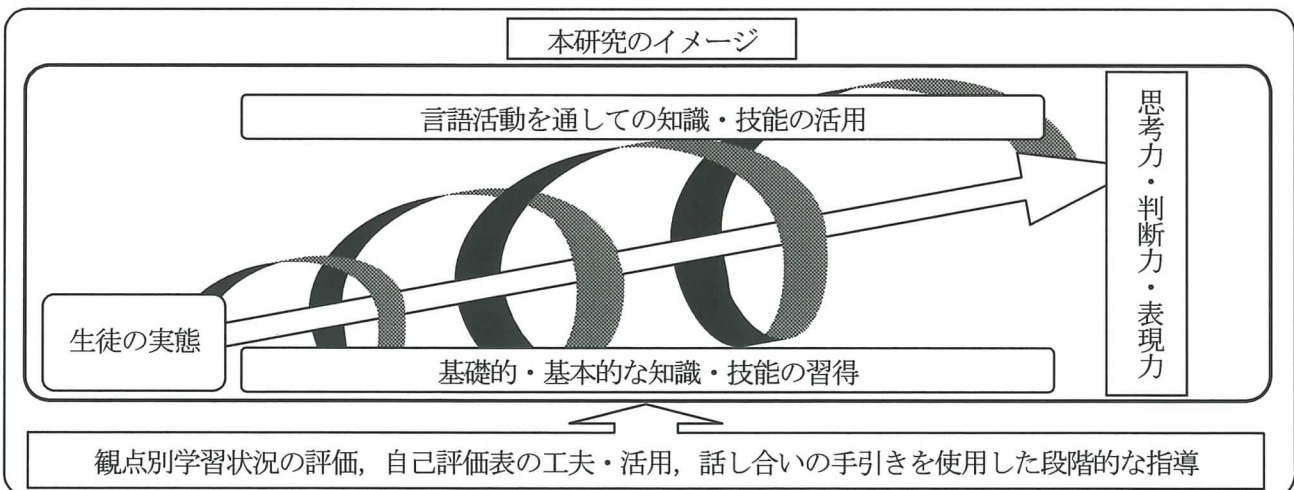
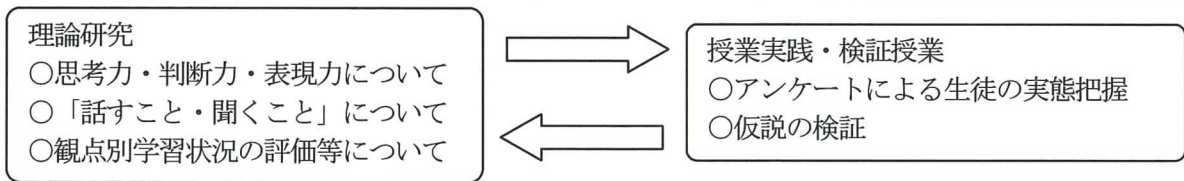
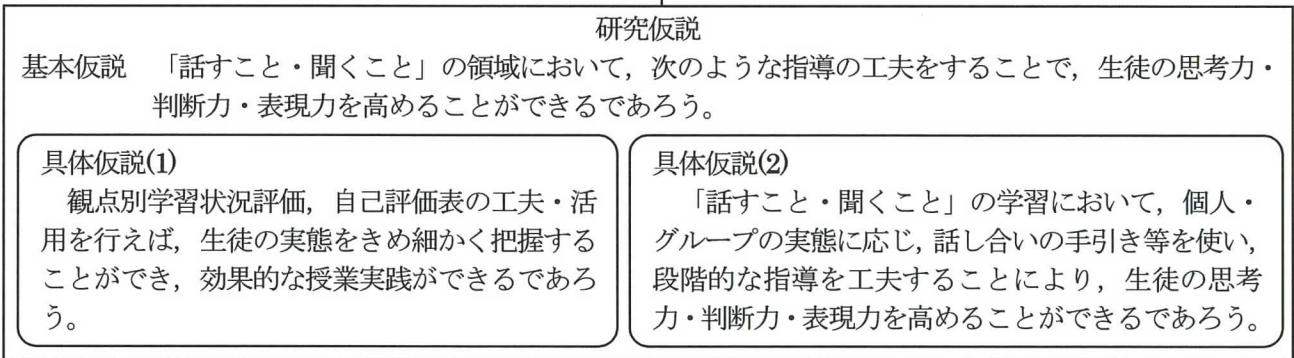


研究テーマ

思考力・判断力・表現力を高める国語科指導の工夫
～「話すこと・聞くこと」の領域に関する観点別学習状況評価等の活用を通して～

研究目標

「話すこと・聞くこと」の領域において、観点別学習状況評価等を活用した、個に応じたきめ細かい指導を行い、「話し合う」活動の場を工夫することにより、思考力・判断力・表現力を育成する。



V 研究内容

1 「思考力・判断力・表現力」について

(1) 思考力・判断力・表現力等の育成と言語活動の充実

「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）」（平成20年1月）（以下「平成20年答申」とする）において、「思考力・判断力・表現力」を育むための学習指導要領改訂の基本的な考え方が示され，中学校学習指導要領解説 総則編で，以下のように指摘している。

（省略）観察・実験，レポートの作成，論述など知識・技能の活用を図る学習活動を発達の段階に応じて充実させるとともに，これらの学習活動の基盤となる言語能力の育成のために，小学校低・中学年の国語科において音読・暗唱，漢字の読み書きなど基本的な力を定着させた上で，各教科等において，記録，要約，解明，論述といった学習活動に取り組む必要がある…（以下省略）

また，言語活動の充実について，中学校学習指導要領 総則 第1章 第1 教育課程編成の一般方針で，以下のように示している。

（省略）基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ，これらを活用して課題を解決するために必要な思考力，判断力，表現力その他の能力をはぐくむとともに，主体的に学習に取り組む態度を養い，個性を生かす教育の充実につとめ，その際，生徒の発達段階を考慮して，生徒の言語活動を充実する…（以下省略）

さらに，総則 第4 指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項において，

(1) 各教科の指導に当たっては，生徒の思考力，判断力，表現力等をはぐくむ観点から，基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに，言語に対する関心や理解を深め，言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え，生徒の言語活動を充実すること。

平成20年答申において，思考力・判断力・表現力等を育むためには，例えば，次のような学習活動が重要であり，このような活動を各教科等において行うことが不可欠であるとしている。

- ①体験から感じ取ったことを表現する
- ②事実を正確に理解し伝達する
- ③概念・法則・意図などを解釈し，説明したり活用したりする
- ④情報を分析・評価し，論述する
- ⑤課題について，構想を立て実践し，評価・改善する
- ⑥互いの考えを伝え合い，自らの考えや集団の考えを発展させる

(2) 国語科における「思考力・判断力・表現力」の捉え方

現行の中学校学習指導要領における国語科の目標は，以下のように示されている。

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し，伝え合う力を高めるとともに，思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし，国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。

前段は国語の能力の根幹となる国語による表現力と理解力とを育成することが，国語科の最も基本的な目標であることを述べている。「適切に表現する能力」と「正確に理解する能力」とは，連続的かつ同時に機能するものであることから最初に位置付けている。後段では，思考力や想像力などは認識力や判断力などと密接にかかわりながら，新たな発想や思考を想像する原動力となるとしている。

三戸部修治（2012）は，「国語科において，思考力・判断力・表現力等を確実に育成することは，国語科の内容に示す指導事項を確実に指導することに他ならない」と述べている。

埼玉大学教育学部附属中学校（2011）では，各教科における思考力・判断力・表現力等^{*}のとら

え方・考え方が提示されている。国語科は以下の通りである。

思考力

- ・文章や話し合いなど言語を中心とする情報を正確に理解するために物事を考え、感じ、想像する力。また、自分の考えや思いを発信するために事柄や内容を整理しまとめる力。

判断力

- ・文章を読み比べ構成・展開・表現の仕方等について評価したり、自他の考えを比較し、共通点や相違点を整理できる力。また、語句・語彙についてその正否や価値を判断することができる力。

表現力

- ・自分の考えや思いを根拠を明確にして相手や場面に配慮しつつ伝えていける力。また、言語感覚を駆使して自分の構想したことを豊かに表現する力。

情緒と語彙力 ※等の部分について

- ・思考力・判断力・表現力を育成していくときに、その基盤として大きく関わるのはその人の「情緒」であると考え。また、語句・語彙力の育成も重要である。人間の思考は言葉を用いる以上、その人間の所有する語彙の範囲を超えられるものではない。思考力・判断力・表現力、情緒の根拠を支えるものが語彙力であると考え。

本研究では、埼玉大学教育学部附属中学校（2011）を参考に、領域「話すこと・聞くこと」の特性を踏まえ、思考と判断は常に伴って行われることから、「思考・判断力」と捉え、それぞれの力を以下のように定義し、指導を行う。

思考・判断力	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動で情報を正確に理解するために物事を考える力 ・自分の考えや思いを発信するために根拠を示し、事柄や内容を整理しまとめる力 ・自他の考えを比較し、共通点や相違点を整理できる力
表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えや思いを根拠を明確にして相手や場面を意識しながら表現する力 ・言語感覚を駆使して自分の構想したことを表現する力

2 「話すこと・聞くこと」について

(1) 「話すこと・聞くこと」の目標と指導事項

中学校学習指導要領解説 国語編（以下「解説国語編」とする）において、「話すこと・聞くこと」に関する目標は、話す能力、聞く能力及び話し合う能力と、話すこと・聞くこと全体に態度に関する目標とを示している。各学年の「話すこと・聞くこと」における目標は、表 1 のとおりである。

〔表 1 各学年の「話すこと・聞くこと」における目標〕

第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年
目的や場面に応じ、日常生活にかかわることなどについて構成を工夫して話す能力、話し手の意図を考えながら聞く能力、話題や方向をとらえて話し合う能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えをまとめようとする態度を育てる。	目的や場面に応じ、社会生活にかかわることなどについて立場や考えの違いを踏まえて話す能力、考えを比べながら聞く能力、相手の立場を尊重して話し合う能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えを広げようとする態度を育てる。	目的や場面に応じ、社会生活にかかわることなどについて相手や場に応じて話す能力、表現の工夫を評価して聞く能力、課題の解決に向けて話し合う能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えを深めようとする態度を育てる。

解説国語編における「話すこと・聞くこと」の各学年の指導事項は、表2のとおりである。

〔表2 各学年における「話すこと・聞くこと」の指導事項〕

	第1学年	第2学年	第3学年
関する指導事項 話題設定や取材に	ア 日常生活の中から話題を決め、話したり話し合ったりするための材料を人との交流を通して集め整理すること。	ア 社会生活の中から話題を決め、話したり話し合ったりするための材料を多様な方法で集め整理すること。	ア 社会生活の中から話題を決め、自分の経験や知識を整理して考えをまとめ、語句や文を効果的に使い、資料などを活用して説得力のある話をする。
話すことに関する指導事項	イ 全体と部分、事実と意見との関係に注意して話を構成し、相手の反応を踏まえながら話すこと。 ウ 話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、相手に分かりやすい語句の選択、相手や場に応じた言葉遣いなどについての知識を生かして話すこと。	イ 異なる立場や考えを想定して自分の考えをまとめ、話の中心的な部分と付加的な部分などに注意し、論理的な構成や展開を考えて話すこと。 ウ 目的や状況に応じて、資料や機器などを効果的に活用して話すこと。	イ 場の状況や相手の様子に応じて話すとともに、敬語を適切に使うこと。
聞くことに関する指導事項	エ 必要に応じて質問しながら聞き取り、自分の考えとの共通点や相違点を整理すること。	エ 話の論理的な構成や展開などに注意して聞き、自分の考えと比較すること。	ウ 聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分のものの見方や考え方を深めたり、表現に生かしたりすること。
話し合うことに関する指導事項	オ 話し合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめること。	オ 相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合い、互いの発言を検討して自分の考えを広げること。	エ 話し合いが効果的に展開するように進行の仕方を工夫し、課題の解決に向けて互いの考えを生かし合うこと。

本研究では、生徒の実態を踏まえ、「話すこと・聞くこと」の領域の中でも「話し合うことに関する指導事項」に重点を置き指導を行う。

(2) 話し合いとは

話し合いについて、国語教育指導用語辞典〔第四版〕には「『話し合い』は、広義には、話し手と聞き手とが一方向的に固定されない形態の『話す・聞く』活動のすべて（挨拶・会話・電話・面接・討議・会議など）を意味する」とある。さらに、「討議」について「一定の問題を解決するために、立場のわかり合った人びとが、協力的に互いの意見を出し合うことである。一定のルールや役割に基づいて議論するように定められていることが多い」とある。

学校生活の中で話し合い活動がよく行われているのは、学級活動等の特別活動である。「中学校学習指導要領解説特別活動編」においても、特別活動における集団活動のなかで、話し合い活動、言語等による表現などが重要だと述べている。「これらの活動の基礎となる能力は、国語科や社会科をはじめ各教科の学習を通して培われていく」とし、特別活動と各教科は互いに関連を持っている。さらに、「小学校学習指導要領解説特別活動編」では、特別活動での話し合い活動と国語科との関連について次のように具体的に述べている。

国語科で身に付けた「話すこと・聞くこと的能力」が、特別活動においてよりよい生活や人間関係を築いたり、集団としての意見をまとめたりするための話し合い活動に実践的に働くことになる。

青木孝頼（2002）は、各教科等と学級活動での話し合いについて表3のように述べている。

〔表3 各教科等と学級活動での話し合い〕

	各教科等の場合	学級活動の場合
議題（題材）の提案者の違い	教師から意図的に提出される	原則として学級の子どもから提出される
話し合いの進行の仕方の違い	教師が計画する展開に沿って進行することが一般的である	司会の子どもたちが計画した進行案によって話し合いが進められる
話し合いの結果としての結論の違い	多くの場合、教師が予定していた結論に到達することが必要とされる	教師が予想していた結果と異なっても、子どもたちが出した結果がそのまま結論となることが原則である

文部科学省は、リーフレット「『中学生熟議』のすすめ」（2011）の中で、「『中学生熟議』は、他者と協同して『熟考』→『話し合い』→『考えの発展・統合、合意形成』といった過程を経る言語活動を含むことから、子どもたちの思考力、判断力、表現力等の育成に資することが期待される」とし、「学級や生徒会などにおける話し合い活動にあたっては、国語科で培った『話すこと・聞くこと』のうちの『話し合うことに関する指導事項』などを踏まえて指導することが大切」であることを述べている。

このことから、話し合いを充実させるには、国語科において話し合いの技能を身に付けさせることが必要であると考えられる。

(3) 話し合いの指導の工夫

① バズセッションとは

新教育学大事典（1990）には、バズセッションの定義について、「共に学習をする人々がお互いに能動的に切磋琢磨してグループ討議をすることである」とある。また、バズセッションの意義を「グループ活動を使って、できるだけ多くの児童生徒の学習活動に対する参加を高めるためになされることにある。」としている。バズセッションの具体的な学習指導の方法について以下のようにまとめた。

- ア 学習のテーマについて個人思考をする。
- イ 小グループでの集団思考をし、各自の考えを深める。
- ウ グループの集団思考をもとに、クラス全体で集団思考をする。

これまでの実践やアンケートから、次のような生徒が多いことが明らかになった。

- ア 人前で話すことが苦手
- イ 自分の言いたいことが相手に伝わらないことがある
- ウ 相手の言っていることが分からないことがある
- エ 話し合いでは、自分から発言することはほとんどない

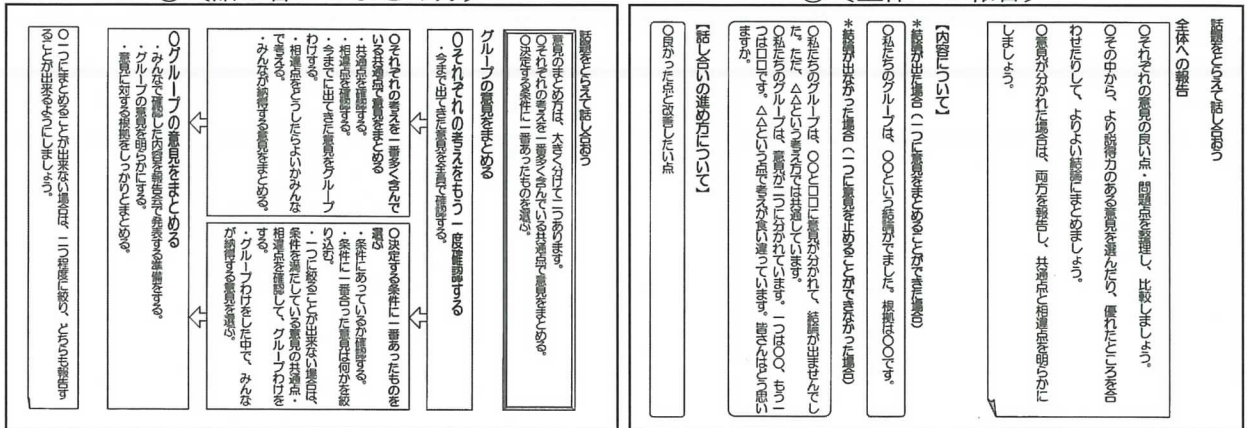
これらの実態を踏まえ、バズセッションの具体的な学習指導の方法を用い、話し合いがスムーズに進むような指導を行うことで、話し合いが充実すると考える。

② 話し合いの手引きの作成

司会、記録などそれぞれの役割や全体への報告、意見のまとめ方などの場面に使用すること

⑦ [話し合いのまとめ方]

⑧ [全体への報告]



手引き⑤～⑦については、机間指導を行いながら必要に応じて配付する。

手引き⑧は、意見をまとめる場面で全体への報告者へ配付する。

3 観点別学習状況評価等について

(1) 観点別学習状況評価の在り方・評価方法等の工夫

平成 22 年 3 月中央教育審議会「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」において、「観点別学習状況の評価は、指導要録に記録するためだけでなく、きめの細かい学習指導と児童生徒一人一人の学習内容の確実な定着を図るため、日常の授業においても適切に実施されるべきもの」としている。

文部科学省国立教育政策研究所「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校 国語】」（平成23年11月）にある，評価方法等の工夫改善について，以下のように述べている。

各学校では、各教科の学習活動の特質，評価の観点や評価規準，評価の場面や生徒の発達段階に応じて、観察、生徒との対話、ノート、ワークシート、学習カード、作品、レポート、ペーパーテスト、質問紙、面接などの様々な評価方法の中から、その場面における生徒の学習の状況を的確に評価できる方法を選択していくことが必要である。上記のような評価方法に加えて、生徒による自己評価や生徒同士の相互評価を工夫することも考えられる。

また、「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）」（平成20年1月）において、「評価の観点並びにそれぞれの観点の評価の考え方，設定する評価規準，評価方法及び評価時期等について，今回の学習指導要領改訂の基本的な考え方を踏まえ，より一層簡素で効率的な学習評価が実施できるような枠組みについて，更に専門的な観点から検討を行うこととしたい。」としており，評価のための評価にならないようにしていかなければならないと考える。

さらに，国語教育指導用語辞典〔第四版〕には，評価について，「評価が以後の学習指導に生きるためには，一度きりの評価，行き止まりの評価ではなく，継続的に行われる評価でなければならない」とし，個人内評価など長いスパンでとらえるものについては，「評価の焦点化による精選や評価方法の簡便化，個人カードの活用などによる評価の継続」の実現をしなければならないと述べている。

このことから，観点別学習状況について総括の評価だけではなく，学習評価をいかした指導を継続して行っていくことが大切であると考えられる。

(2) 学習評価をいかした指導の工夫

① 指導と評価の一体化

中央教育審議会「児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について（答申）」（平成12年12月）には、「指導と評価とは別物ではなく、評価の結果によって後の指導を改善し、さらに新しい指導の成果を再度評価するという、指導に生かす評価を充実させることが重要」であると記されている。

② 座席表を活用した学習評価の工夫

北海道立教育研究所は、授業に生かす子どもの実態把握のポイントを表4のようにまとめている。

〔表4 授業に生かす子どもの実態把握〕

	把握の視点	把握の方法	把握した実態の生かし方
学習前 (診断的評価)	○興味・関心 ○新しい学習に必要な知識 ○ものの見方や考え方, 思いや願い ○日常の学習態度 ○生活経験 ○行動の特性 ○友人関係 など	○テスト ○質問紙 ○観察 など	○指導計画の見直し ○主体的な学びを促す教材・教具の選択 ○体験的な活動の充実 ○個の特性に応じた学習形態や指導体制の検討
学習中 (形成的評価)	○評価規準に沿った学習状況 ○見方や考え方のよさ ○誤答やつまずきの原因 ○学習の進捗状況 など	○テスト ○質問紙 ○観察 ○学習プリント(ノート) ○自己評価 など	○学習状況に応じた個別指導の工夫 ○教師の指導についての評価 ○学習状況に応じた授業展開の修正
学習後 (総括的評価)	○単元(題材)の目標の実現状況 ○学年で育てる資質・能力の実現状況 など	○テスト ○面接 ○実技 ○ポートフォリオ ○作品 ○レポート ○学習プリント(ノート) など	○単元(題材)の目標の実現状況に応じた以後の指導の改善

本研究では、上記の表4をもとに、以下の点に気をつけながら座席表を活用し、観点別学習状況の評価も踏まえ、生徒の実態を授業にいかしていきたい。

【授業前】

- 事前アンケート、定期テスト等から読み取れる生徒の実態を必要に応じて記入する。観点別の項目については、A・Cの生徒を記入し、授業中も活用できるようにする。

【授業中】

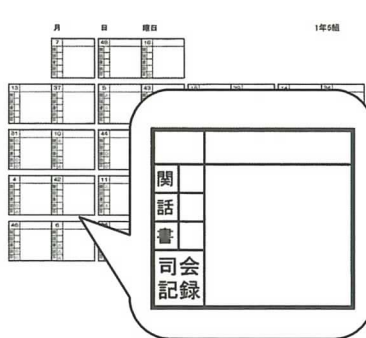
- 話し合いに関われない生徒や話し合いを脱線させる生徒(C)を記録する。

【授業後】

- 自己評価表から、次時の授業で困難が予想される生徒について記入する。
- 達成できたものやうまくいった手立て、生徒のよさも必要に応じて記入する。

【本研究における記入について】

- 「話すこと・聞くこと」の領域について記入する。
- 「書」については、自分の意見をまとめているかをワークシートをもとに、うまくまとめている生徒について記入し、バズセッション実践の机間指導にいかす。



(3) 自己評価表の工夫・活用

① メタ認知能力とは

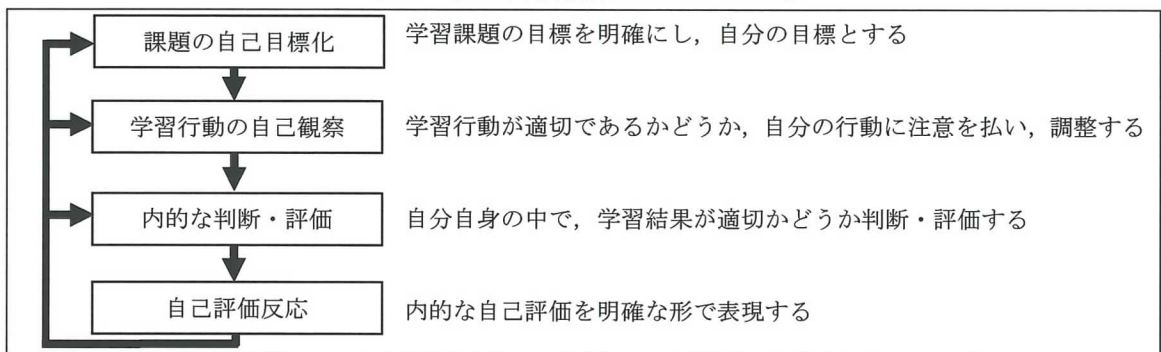
石田勢津子（2004）は、自分の行動や認知を自分自身でコントロールする能力のメタ認知を実際の学習場面に当てはめている。

- ①教師から与えられた課題を自分の学習目標として受け入れたり、あるいは自ら学習課題を設定することができる。
- ②学習過程で目標達成のためにどのような情報や活動が必要なのか、自分の行動を観察・チェックしながら調整できる。
- ③さらに、学習結果について、これで十分かどうか判断し自ら評価できる。

② 自己評価活動とは

石田は、自己評価活動のメカニズムを表3のように示している。

〔表3 自己評価活動のメカニズム〕



このことから自己評価表の作成を工夫し、生徒による自己評価活動が適切に行われれば、生徒の実態把握の材料が増え、授業改善にいかすことができると考える。

③ 自己評価表の作成

自己評価活動のメカニズムをもとに、学習の流れの確認が出来るような自己評価表（表5）を作成し、指導を進めていく。作成・使用に際しては以下の点を心掛けたい。

- ・学習目標が確認出来るような形式とする。
- ・生徒に学習の見通しを持たせるため、学習活動を記載する。
- ・本時の評価規準と照らし合わせ、生徒自身が自己評価することが出来る項目を設ける。
- ・毎時間点検を行い、必要に応じてコメントを記入する。

〔表5 学習計画・自己評価表〕

学習計画・自己評価表		組 番 氏名	
単元名 論点をとらえる	単元の目標 事実と意見の關係に注意して、 要旨をとらえる	話題をとらえて話し合おう パズセッション	
<p style="margin: 0;">学習目標</p> <p style="margin: 0;">○話題や議論の流れを的確にとらえて話し合う。</p> <p style="margin: 0;">○事実と意見の關係に注意し、相手の反応を踏まえながら話す。</p>			
(A:できた B:だいたいできた C:あまりできなかった D:できなかった)			
時	学習日	学習活動	授業の振り返り (学んだこと・参考になったこと・疑問に思ったこと) 自己評価
1	/	<input type="checkbox"/> 学習の見通しをもつ <input type="checkbox"/> 話し合いの形式を確認する	<input type="checkbox"/> 今までの話し合いを振り返ることができた <input type="checkbox"/> 話し合いの形式を確認することができた
		<input type="checkbox"/> ミニ実践をする <input type="checkbox"/> 課題と注意するところを確認する	<input type="checkbox"/> 言葉に気をつけてミニ実践ができた <input type="checkbox"/> 課題や留意点を考えることができた

バズセッション実施後は、振り返りを行わせ反省点を次の実践に生かせるようにする（右図）。

振り返りについては、右図 1～7 の項目について 4 段階の自己評価をさせる。その結果を踏まえて次のバズセッションではどうしたいかを記入させ、話し合いについて意識を持たせるようにする。

バズセッションを振り返ろう		組	番	氏名
(A: できた B: だいたいできた C: あまりできなかった D: できなかった)				
1	目的や課題を踏まえて話し合いに参加することができた			
2	自分の意見・立場を明確にすることができた			
3	事実や体験を用いて、根拠をあげ説得力のある意見を言うことができた			
4	適切な質問をして、話し合いを深めることができた			
5	要点を押さえてメモを取ることができた			
6	司会・記録がそれぞれの役割を果たすことができた			
7	司会・記録が役割を果たすことができるように話し合いに参加した			
7	グループ内で意見を整理し、協力して結論を出すことができた			

VI 研究実践

1 検証計画

事前調査	<ul style="list-style-type: none"> ・調査内容：「話すこと・聞くこと」に関する意識調査 11月実施 ・調査方法：アンケート 		
検証計画	検証場面	検証の観点	検証方法
	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の実態把握 ○個人・グループの実態に合わせた段階的な指導 	<ul style="list-style-type: none"> ○観点別学習状況評価、自己評価表の工夫・活用による生徒の実態把握をいかした授業実践を行うことができたか。 ○実態に応じた手引きを作成し、適切に使用することで、生徒の思考力・判断力・表現力を高めることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○観点別学習状況評価、自己評価表、アンケート、ワークシート ○ワークシート、話し合い活動の手引き、行動観察
事後調査	<ul style="list-style-type: none"> ・調査内容：「話すこと・聞くこと」に関する意識調査 12月・1月実施（検証授業終了後） ・調査方法：アンケート ・事前調査と検証授業後の比較 		
検証の視点 観点別学習状況評価、自己評価表の活用を行い、生徒の実態をもとに、話し合い活動の手引きを作成し、「話すこと・聞くこと」の領域に関する授業実践を行ったことは、生徒の思考力・判断力・表現力を高めるために有効だったか。			

2 指導の実際

(1) 教材名 話題をとらえて話し合おう バズセッションをする（第1学年 光村図書）

(2) 教材の目標

- ・話題や議論の流れを的確にとらえて話し合う。
- ・事実と意見の関係に注意し、相手の反応を踏まえながら話す。

(3) 単元設定の理由

① 教材観

「話すこと・聞くこと」の指導事項「話し合うこと」において、第1学年では、「練習 流れを踏まえて話し合おう」、「話題をとらえて話し合おう バズセッションをする」という教材を通して、話題や方向をとらえて話すこと、相手の発言を聞いて自分の考えをまとめることを学習する。

本教材は、日常生活の中でよくある限られた時間の中での話し合いの場面で、どのようにすれば議論を深め、よりよい解決策を見つけることができるか等、グループで効果的に話し合いを進めていく方法を身に付けることができる教材である。

② 生徒観

ア 教材に対する生徒観

生徒は、小学校で「話し合うこと」について、第1学年及び第2学年「互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うこと」、第3学年及び第4学年「互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合うこと」、第5学年及び第6学年「互いの立場や意図をはっきりさせながら計画的に話し合うこと」を学習してきている。本学年では、「話し合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめること」が出来るようになることが期待できる。

イ 生徒の実態

事前実施したアンケートでは、「自分の言いたいことが相手に伝わらないときがあるか」という質問に対し、58%の生徒が「ある・どちらかというところ」と答えている。その理由として、説明不足だと答える生徒がほとんどであった。また、「人と話していて相手が何を言っているか分からないときがあるか」という質問に対しても、64%の生徒が「ある・どちらかというところ」と答えている。その理由についても、説明不足だという答えが多かった。

③ 指導観

アンケートの結果から、人前を出て自分の考えを発表することに対し、苦手意識をもっている生徒が多く見られた。バズセッションで少人数の中で自分の考えを発表する機会を取り入れ、発表することに対する苦手意識を軽減させたい。また、日常的に行っているグループでの学習についても、自分の考えを積極的に発言する生徒が少なく、受け身であることが伺えるため、バズセッションの準備の中で、自分の意見を持たせ、説得力のある発言にするための方法を指導していきたい。

(4) 教材の評価規準

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力
・日常生活の中から、話し合いにふさわしい課題を見つけ、進んで意見交換をしようとしている。	・事実や意見をどのように配列すると分かりやすいかを考えて話を構成し、文末表現などに注意するとともに根拠を明確にして意見を述べている。(イ) ・話し合いの話題や方向を捉え、自分の考えと比較しながら相手の話を聞き、自分の考えをまとめている。(オ)

(5) 教材の指導計画・評価計画

	◎目標 ◆学習内容	関	話	○評価規準 □評価方法
1	◎話し合い学習に関心を持ち、話し合いの目的や形式、留意点について認識を深める。 ◆学習の見通しを持つ ◆今までの話し合いを振り返る。 ◆話し合いの形式を知りバズセッションについて確認する。	○	◎	○話し合い学習に関心を持ち、その目的や方法、留意点について理解している。 □ワークシート①・発言

2	<p>◎バズセッションのミニ実践を行い、課題と留意点を意識する。</p> <p>◆バズセッションにおける司会・記録・報告の役割を知る。ワークシート②</p> <p>◆メモの取り方について学習する。ワークシート②</p> <p>◆練習（ミニ実践）をし、課題や留意点を挙げ、実践に向けて確認する。</p>		<p>◎ ○ミニ実践で進んで意見交換をしている。</p> <p>□観察</p>
3	<p>◎課題に対する自分の考えをまとめる。</p> <p>◆課題に対する自分の考えを持ち、整理する。</p> <p>◆自分の考えの根拠・問題点・解決法について見直し、より説得力のある意見を考える。</p>		<p>◎ ○事実や意見をどのように配列すると分かりやすいかを考えて話を構成しようとしている。</p> <p>□ワークシート③</p>
4 (本時1)	<p>◎バズセッションを行い、記録を整理してグループの意見をまとめる。</p> <p>◆バズセッションの流れ、目的、課題、留意点、役割を確認する。</p> <p>◆バズセッションを行う。</p> <p>◆報告会に向けて記録を整理する。</p> <p>◆バズセッションを振り返る。</p>		<p>◎ ○相手の発言内容を確認しながら良い点や問題点を明らかにしている。</p> <p>□ワークシート④・観察</p>
5	<p>◎報告会でグループごとの結果を共有し、活動を振り返る。</p> <p>◆話し合った内容をクラス全員に報告する。</p> <p>◆学習を振り返る。</p>	◎	<p>◎ ○自分の考えを分かりやすく話している。</p> <p>□発言</p> <p>○話し合いに臨んだ自分の姿を振り返り、学んだ内容を記録している。</p> <p>□ワークシート⑤</p>
6	<p>◎課題に対する自分の考えをまとめる。</p> <p>◆課題に対する自分の考えを持ち、整理する。</p> <p>◆自分の考えの根拠・問題点・解決法について見直し、より説得力のある意見を考える。</p> <p>◆バズセッションの流れ、目的、課題、留意点、役割を再度確認する。</p>		<p>◎ ○事実や意見をどのように配列すると分かりやすいかを考えて話を構成しようとしている。</p> <p>□ワークシート⑥</p>
7 (本時2)	<p>◎ミニ実践、第1回バズセッションの反省をいかし、第2回バズセッションをする。</p> <p>◆バズセッションを行う。</p> <p>◆報告会に向けて記録を整理する。</p> <p>◆話し合った内容をクラス全員に報告する。</p> <p>◆バズセッションを振り返る。</p>	◎	<p>◎ ○相手の発言内容を確認しながら良い点や問題点を明らかにし、グループの意見をまとめている。</p> <p>□ワークシート⑦・観察</p> <p>○話し合いに臨んだ自分の姿を振り返り、学んだ内容を記録している。</p> <p>□ワークシート⑦</p>

3 本時の学習指導

(1) 本時 1 (4/7 時間)

① ねらい

バズセッションを行い、記録を整理しグループの意見をまとめる。

② 本時の評価規準

評価の観点	話す・聞く能力
評価規準	・相手の発言内容を確認しながら、良い点や問題点を明らかにした上で、意見を述べている。(オ)
評価方法	観察・ワークシート

③ 授業仮説

バズセッションで多様な意見に触れ、グループの意見をまとめる場面において、話し合いの手引きを使い、司会を中心に、より説得力のある意見を選んだり、すぐれたところを合わせてよりよい結論にまとめることを通して、自分の考えを深めることができるであろう。

④ 展開

過程	学習活動	○発問等・□予想される生徒の反応	指導上の留意点, 評価等
導入 (3分)	<p>○前時を振り返る。</p> <p>○本時のめあてを知る。</p> <p>「学級をより良くするために、私たちに何ができるか」についてバズセッションをし、グループの意見をまとめよう。</p>		
展開 (42分)	<p>○バズセッションの流れ、目的、課題、留意点、役割を確認する。(5分)</p> <p>○バズセッションを行う。(25分)</p> <p>司会…全員が課題に対して意見や根拠を意見交換できるように話し合いを進める。</p> <p>記録…誰のどんな意見か、根拠となることがらは何かをメモする。</p> <p>発言者…自分の意見や立場、その根拠を簡潔に説明する。</p> <p>聞き手…要点を押さえて聞き、必要があればメモをとる。</p>	<p>○バズセッションとはどのような活動ですか？</p> <p>□4～6人グループ</p> <p>□時間が決まっている</p> <p>□グループで話し合ったことを最後は全体に報告する。</p> <p>○グループに分かれてバズセッションをしましょう。司会の皆さんは準備ができたからグループの話し合いを始めて下さい。</p>	<p>○教科書、前時までにまとめたワークシートを確認させる。</p> <p>評価①相手の発言内容を確認しながら、良い点や問題点を明らかにした上で、意見を述べている。</p> <p>○司会：机間指導を行い、話し合いのポイントを記した手引き①～④を必要に応じて提示する。</p> <p>○記録：メモがしっかりとできているか確認する。必要に応じて手引き⑤を提示する。</p>

展 開 (42分)	○記録をもとに報告会で発表する内容をグループで決める。(12分)	○これから、報告会で発表する内容をグループで決めます。それぞれの意見の良い点、問題点を整理して、より説得力のある意見を選んだり、それぞれの意見の良い点を合わせてグループの意見をまとめて下さい。	○司会：教科書を再確認させる。手引き⑧を提示する。
まとめ (5分)	○本時の授業の振り返り自己評価表の記入	○自己評価をしましょう。自己評価を書くときは、必ず根拠も記入しましょう。	○自己評価を書くときも根拠を意識して書かせる。

⑤ 評価

- ・相手の発言内容を確認しながら良い点や問題点を明らかにした上で自分の意見を述べる事ができたか。

(2) 本時 2 (7/7 時間)

① ねらい

ミニ実践・第1回バズセッションの反省をいかし、全員が良い点や問題点を明らかにしながら意見を述べ、グループの意見をまとめる。

② 本時の評価規準

評価の観点	話す・聞く能力
評価規準	・相手の発言内容を確認しながら良い点や問題点を明らかにした上で、意見を述べている。(オ) ・司会を中心にグループの意見をまとめている。(オ)
評価方法	観察・ワークシート

③ 授業仮説

バズセッションの実践において、観点別学習状況評価、自己評価表を使い生徒の実態把握を行う。それをもとに、司会の生徒への手引きの提示及び助言を行うことで、全員が話し合いに参加し、より説得力のある意見を選んだり、よりよい結論にまとめることができ、思考・判断力を高めることができるであろう。

④ 展開

過程	学習活動	○発問等・□予想される生徒の反応	指導上の留意点、評価等
導入 (5分)	○これまでのバズセッションを振り返る。	○ミニ実践、バズセッションを振り返って、うまくいかなかったところはどこですか。 □意見をまとめるところ □意見が出てこなかった	○発言がない場合は、自己評価表をもとに、指名する生徒を決めておく。

VII 仮説の検証

本研究では、教材「話題をとらえて話し合おう バズセッションをする」において実践を行った。観点別学習状況評価等を活用し、生徒の実態把握を行い、話し合いの手引きを作成しバズセッションを行う活動が、思考力・判断力・表現力を高める指導として有効であったか、授業の様子や自己評価表、アンケート結果などから検証する。

1 具体仮説(1)の検証

観点別学習状況評価、自己評価表の工夫・活用を行えば、生徒の実態をきめ細かく把握することができ、効果的な授業実践ができるであろう。

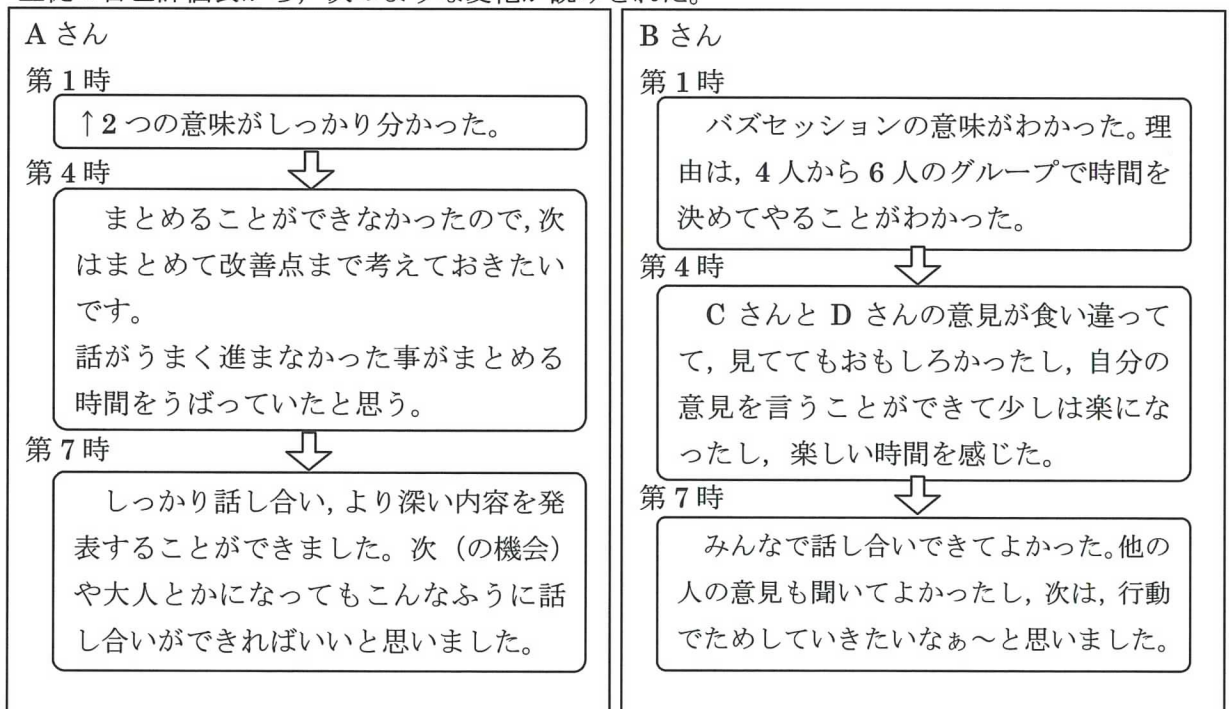
(1) 観点別学習状況評価（「話すこと・聞くこと」）の活用

観点別学習状況評価を活用することで以下の4点を意識し授業を進めることができた。

- ①生徒の実態に応じた手引きの作成
- ②司会、記録の意図的な指名
- ③話し合いがうまく進むようなグループ編成
- ④グループの話し合いの進行状況の把握・手立て

(2) 自己評価表の工夫・活用

生徒の自己評価表から、次のような変化が読みとれた。



[Aさんの自己評価表]

第1時では、自己評価の項目「今までの話し合いを振り返ることができた」「話し合いの形式を確認することができた」について、2つの意味がしっかり分かったと記入している。項目の文末表現と生徒自身の文末表現にずれがあり、内容についても詳細が書かれていなかった。

第4時では、バズセッションの進め方についての記述がみられる。うまくいかなかった理由をしっかりと記述している。

第7時では、本時の内容に加え、今後どうしたいかについて述べている。

[Bさんの自己評価表]

これまでの授業の中で話し合いの場面になると、自分の意見に対して周りがどう思っている

かを気にするため、積極的に参加することが出来ないことがあったが、今回のバズセッションでは、自分の意見をしっかりと持って発言し、参加することができた生徒である。

第1時では、自分自身が初めて分かったことを記入している。

第4時では、自分自身のことだけではなく、同じグループの司会をしたCさんとDさんのやり取りについても書いている。

第5時では、他者の意見を聞くことができて良かった。更に、行動で試していきたいという前向きな姿勢も書いている。

[学級全体]

自己評価表をみると、81%の生徒が回数を重ねる毎に自己評価の理由を述べるなど、記述の内容が詳しくなっていた。また、次の内容が分かることで、今日出来なかったことを次までに出来るようにする等、生徒の授業に対する意欲的な態度が表れる文章が多くなっていた。

(1)観点別学習状況評価の活用、(2)自己評価表の工夫・活用から、観点別学習状況評価の記録を行うことにより、グループ編成や役割分担、生徒への声かけを意識して行うことができ、実態に応じた話し合いの手引きを作成することが出来た。また、自己評価表の工夫・活用を行うことで、生徒自身が授業をしっかりと振り返り、次時へ向けての学習の準備を自主的に行うなどの変容が見られ、効果的に授業を行えたことから、仮説(1)は有効であったと考える。

2 具体仮説(2)の検証

「話すこと・聞くこと」の学習において個人・グループの実態にあわせ、話し合いの手立て等を使い、段階的な指導を工夫することにより、生徒の思考・判断力、表現力を高めることができるであろう。

[アンケートから]

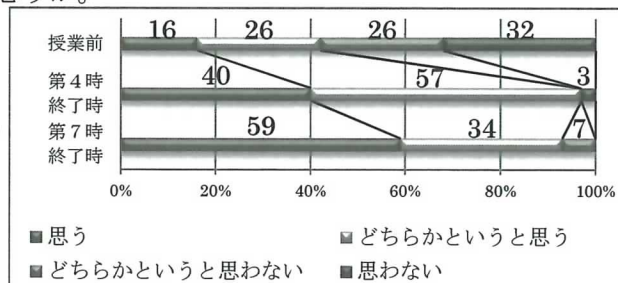
(1) グループで話し合い活動を行うとき、どのように参加しているか。

授業前と比較すると、バズセッションの回数を重ねるごとに生徒の参加の態度に変容が見られた。また、意見のメモを取りながらバズセッションに参加したという記述も見られ、積極的に発言しないが、準備はしていると答えた生徒にも、行動の変化が見られた。



(2) 自分の言いたいことが相手に伝わっていると思うか。

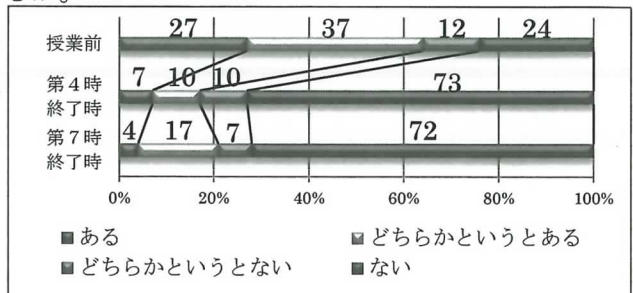
バズセッションを行う前は、約半数の生徒が自分の意見が伝わっていないと思っていたが、第4時、第7時終了後は約90%の生徒が自分の言いたいことが相手に伝わっていると感じている。理由として、根拠を言うことができた、相手が反応しながら聞いてくれたことが挙げられた。「どちらかというと思わぬ」と答えた生徒の中には、声が小さくて相手あまり聞こえていなかったのではないかと相手を意識した理由もあり、生徒の意識が変化していることも伺える。



(3) 相手が何を言っているか分からないことがあるか。

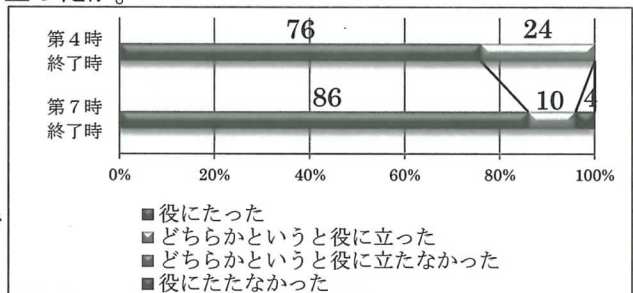
第7時終了後、相手が何を言っているか分からないことがあると答えた生徒は4%であった。言葉の意味が分からなかったという理由であったが、もう一度説明してもらったことも記述していた。

授業前は、相手が何を言っているか分からないときは、そのままにしておくで答えた生徒が多かったが、バズセッションの授業を行うことで、もう一度聞く姿勢が見られるようになった。



(4) バズセッションのときに使った手引きは役に立ったか。

ほぼ全員の生徒が、話し合いの手引きが「役にたった・どちらかという役に立った」と答えている。第7時終了時に役に立たなかったと答えた生徒は「手引きをあまり見なかった」という理由である。記録を担当していたEさんであるが、国語の力もあり、これまでの授業をしっかりと聞くことで、話し合いのスキルを身につけることができたと考えられる。話し合いの手引きの活用は、話し合いがスムーズに進む点では有効であったと考える。しかし、話し合いのまとめの場面においては、第4時、第7時ともにまとめることが難しかったという意見があることから、今後も継続した指導が必要である。



(5) バズセッションの授業をやる前とやった後で変わったことはあるか。

ほとんどの生徒が変わったと答えている。その主な理由は以下のとおりである。

- ・自分の意見を根拠をもとに発言するようになった
- ・自分から意見を話すことができるようになった
- ・他の授業での話し合いがやりやすくなった
- ・話し合いの中でのむだな話が減った
- ・全員が話し合いに参加するようになった
- ・話し合いをするときにどうすればよいか分かったので気持ちが楽になった

第7時に行ったバズセッション(2回目)では、第4時で司会や記録だった生徒が、話し合いで行き詰った場面で他の生徒にアドバイスする姿も見られ、話し合いの手引きを活用することで、どの生徒も司会をすることが出来るようになるのではないかと考える。

このことから授業実践、生徒のアンケートをもとに、思考・判断力、表現力について以下のよう

思考・判断力	<p>○話し合いのテーマについて、根拠をもとに自分の考えを整理しまとめることができた。</p> <p>○相手を説得するための言葉や自己の意見の根拠を判断し、相手に分かりやすく自分の意見を伝えることができた。</p> <p>○グループの意見をまとめる場面において、司会や記録を中心にグループの意見をまとめることができた。</p> <p>△情報を正確に理解し、うまく意見をまとめることができないグループがあった。</p>
--------	--

表現力	<p>○自分の意見を述べ、分かりやすく説明する場面において、言語感覚を駆使して自分の構想したことを表現することが概ねできた。</p> <p>○回数を重ねることで相手を意識して表現することができるようになった。</p>
-----	--

以上のことから、個人・グループの実態にあわせ、話し合いの手立て等を使った段階的な指導の工夫は、生徒の思考・判断力、表現力を高めるための手立てとして有効であった。

VIII 研究の成果、課題・対応策

1 成果

- (1) 観点別学習状況の評価の活用、自己評価表の工夫・活用を行い生徒の実態把握をし、授業実践を行うことで、話し合いに対する意識の変化、今後の生活にいかそうとする姿勢等、生徒の確かな変容がみられた。
- (2) 話し合いの手引きを作成し、必要に応じて支援を行うことでどのグループも話し合い活動を行うことができた。

2 課題・対応策

- (1) 短時間で内容を理解し活用することができるよう、話し合いの手引きの内容を簡素化することと生徒参加の手引きの作成が必要である。
- (2) 各領域について、年間を通して育てる生徒像を持ち授業を実施するための評価規準の明確化を図る必要がある。

《参考・引用文献》

- 文部科学省（2008）中学校学習指導要領 株式会社 東山書房
- 文部科学省（2008）中学校学習指導要領解説 総則編 株式会社ぎょうせい
- 文部科学省（2008）中学校学習指導要領解説 国語編 株式会社東洋館出版社
- 文部科学省（2012）言語活動の充実に関する指導事例集【中学校版】 教育出版株式会社
- 中央教育審議会（2010）児童生徒の学習評価の在り方について（報告）
- 中央教育審議会（2008）
幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）
- 国立教育政策研究所 教育課程研究センター（2011）
評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校 国語】 教育出版株式会社
- 田近洵一・井上尚美 編（2012）国語教育指導用語辞典〔第四版〕 教育出版株式会社
- 三戸部修治（2012）V PRESS Vol.12 光文書院
- 北尾倫彦（2011）〔平成24年度版〕観点別学習状況の評価規準と判定基準 株式会社図書文化社
- 埼玉大学教育学部附属中学校（2011）教育研究 60巻
- 川口市立新郷東小学校（2009）
交流する力をつけるための「話す・聞く・話し合い」の指導ステップ表
- 石田勢津子（2004）CS研レポート Vol.52 啓林館
- 青木孝頼（2002）特別活動 指導の基本構想
- 第一法規出版株式会社（1990）新教育学大事典
- 北海道立教育研究所ホームページ <http://www.doken.hokkaido-c.ed.jp/>